



スターゼン  
株式会社

# 決算説明会資料

2022年  
5月31日

証券コード：8043

---

# 1. 事業環境認識

執行役員 経営本部長 奥村 浩明

## 1-1. ロシアのウクライナ侵略の影響について

エネルギー相場・穀物相場に大きな影響を及ぼす  
(ブレント原油価格) (トウモロコシ先物)

Published on TradingView.com, Mar 09, 2022 03:39 UTC-5

BRENT LAST DAY FINANCIAL FUTURES (MAY 2022), 1D, NYMEX O129.57 H131.63 L128.25 C130.14 +2.16 (+1.69%)  
Vol 3.095K

**2022年3月**  
**136.00 (USドル/バレル)**

**約2.7倍**



CORN FUTURES (MAR 2022), 1D, CBOT O7562 H7572 L7526 C7572 +26 (+0.36%)  
Vol 13

**2022年3月**  
**800'00 (¢/bu)**

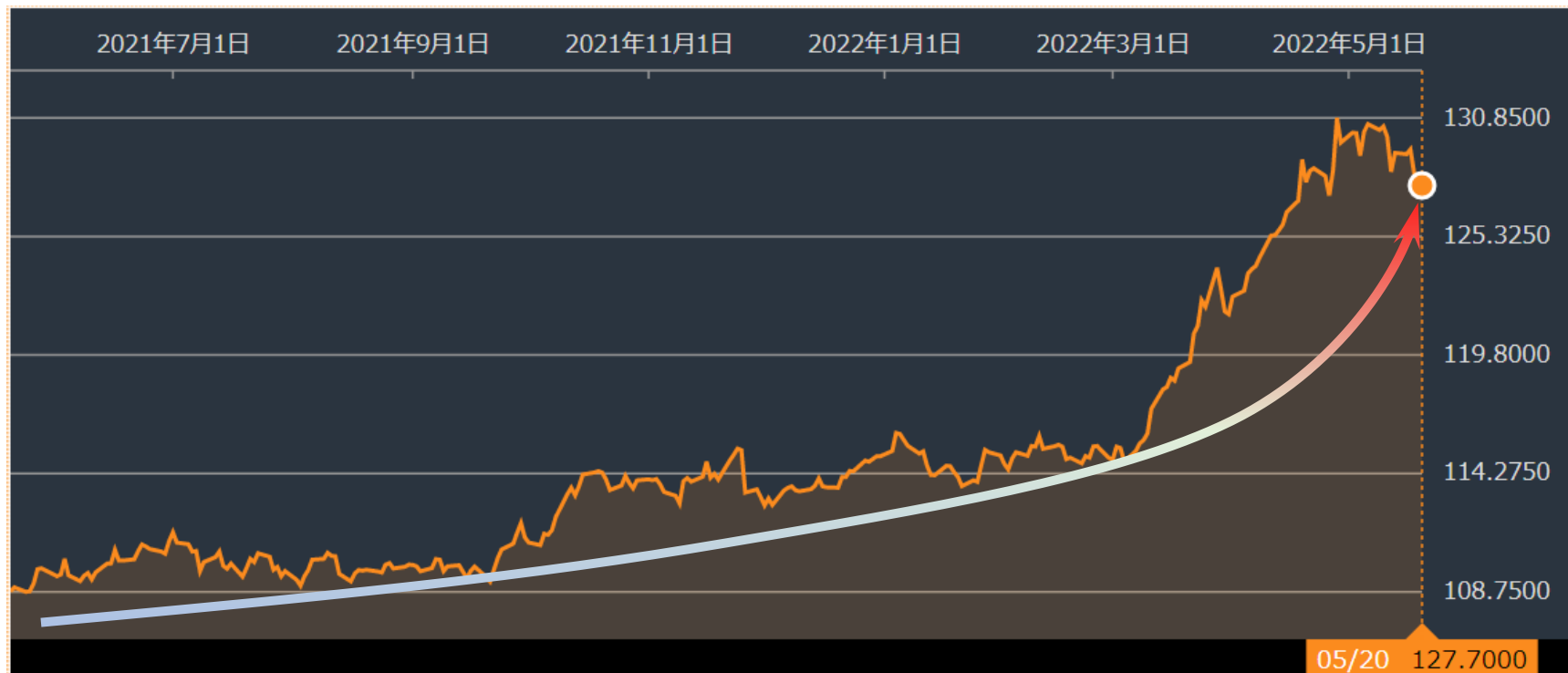
**約2倍**



出典：CME Group ウェブサイトより

## 1-2. 為替相場

### 3月以降、急速な円安が進行



出典：Bloomberg 5/20時点

## 1-3. 事業環境のまとめ

### 国内の食肉需給環境

- 家庭内消費はコロナ禍前と同様の水準
- 外食需要は回復傾向、インバウンド消費の喪失
- 飼料価格・燃料価格の高騰
- 急速な円安の進行
- 相次ぐ値上げによる生活防衛意識の高まり
- 食二一スの多様化、代替肉市場の拡大

- 輸入食肉、原材料の高騰
- 変化するマーケットへの対応

### 海外の食肉需給環境

- 自由貿易協定等による関税低減
- 世界的な政情不安
- サプライチェーンの不安定化
- 世界的な人口増加と食料不足の懸念
- 和牛に対する需要の高まり
- 米国における日本産牛肉の関税引き上げ

- 輸入食肉の調達環境の変化
- 国産食肉の輸出環境の変化

### 社会的な課題

- 人口減少、少子高齢化
- 気候変動対応
- 食品ロスへの対応
- アニマルウェルフェア意識の高まり
- 物流の2024年問題
- ITシステムの「2025年の崖」

- 業務効率化とITの活用、物流の効率化
- サステナビリティへの取組強化

### 当社の課題

- 収益基盤・サプライチェーンの強化
- 代替食肉や海外展開の取り組み拡大
- グループ競争力の強化
- コーポレート機能の強化
- より高度なガバナンスの追求
- 人材の多様化、人的資本への投資

- 経営の効率化
- 働きがいのある職場づくり

---

## 2. 2022年3月期 通期決算概要

取締役 財務経理本部長 定信 隆壮

## 2-1. 決算サマリー

|    |                      |                                                                                                                                                                                                                                           |
|----|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 業績 | 2022年<br>3月期<br>通期実績 | <b>売上高・利益ともに増加</b><br>売上高 : 3,814億円 (前期比 +9.2%)<br>経常利益 : 91億円 (前期比 +6.5%)<br><br>・売上面…家庭内需要が堅調に推移する中、加工食品の取扱量増加や輸入食肉の国内相場上昇により増収。<br><br>・利益面…各商品の調達、販売環境が大きく変動する中、輸入牛内臓肉および輸入鶏肉の国内相場上昇で利鞘が拡大。また、ハンバーグやスライス品、ローストビーフ関連商品の販売が堅調に推移、利益に貢献。 |
|    | 2023年<br>3月期<br>通期予想 | <b>売上高増加・利益減少</b><br>売上高 : 3,900億円 (前期比 +2.2%)<br>経常利益 : 84億円 (前期比 ▲8.4%)<br><br>・売上面…国内相場の高値環境継続を見込、増収予想。<br><br>・利益面…食肉調達価格の高騰や販売競争の激化、人手不足による物流費や人件費の増加により減益予想。                                                                        |

## 2-2. 業績サマリー

### 前期比較PL

(単位：億円)

|       | 前期<br>(21/3) | 対売上高<br>利益率<br>(21/3) | 当期<br>(22/3) | 対売上高<br>利益率<br>(22/3) | 増減額  |
|-------|--------------|-----------------------|--------------|-----------------------|------|
| 売上高   | 3,492        |                       | 3,814        |                       | +321 |
| 売上総利益 | 343          | 9.8%                  | 354          | 9.3%                  | +10  |
| 営業利益  | 66           | 1.9%                  | 69           | 1.8%                  | +2   |
| 経常利益  | 86           | 2.5%                  | 91           | 2.4%                  | +5   |
| 税前利益  | 83           | 2.4%                  | 84           | 2.2%                  | +1   |
| 税後利益  | 69           | 2.0%                  | 59           | 1.6%                  | ▲9   |



## 2-3. 売上高

### 売上高（品目別）

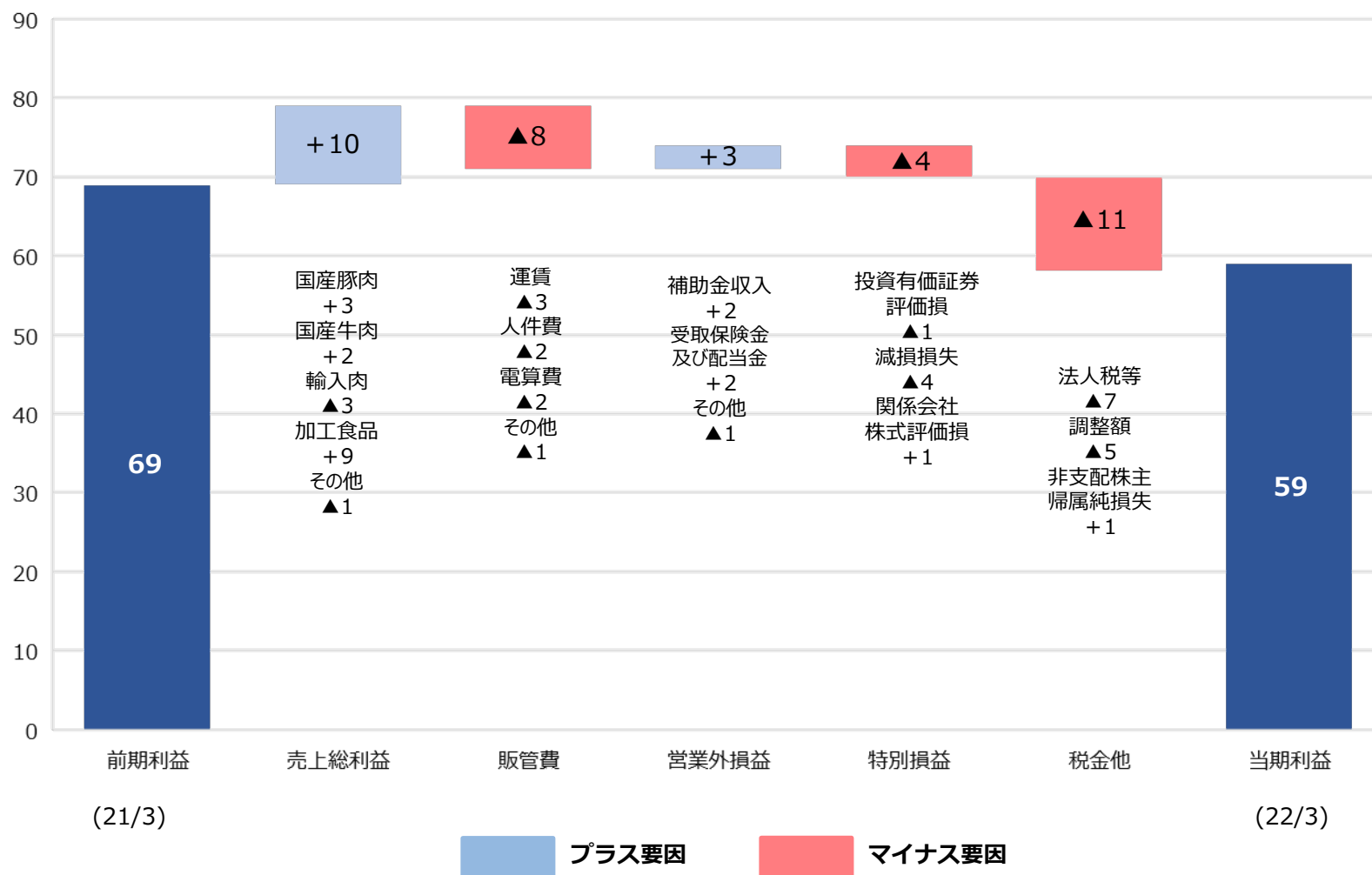
（単位：億円）

|          | 前期<br>(21/3) | 当期<br>(22/3) | 増減額  | 増減比    |
|----------|--------------|--------------|------|--------|
| 国産食肉     | 1,498        | 1,561        | +62  | +4.2%  |
| 輸入食肉     | 1,272        | 1,440        | +168 | +13.2% |
| 加工食品     | 556          | 651          | +95  | +17.1% |
| ハム・ソーセージ | 115          | 113          | ▲2   | ▲1.9%  |
| その他      | 49           | 46           | ▲2   | ▲4.2%  |
| 計        | 3,492        | 3,814        | +321 | +9.2%  |

## 2-4. 損益増減概要

### 損益増減要因概要

(単位：億円)



## 2-5. 貸借対照表

(単位：億円)

|            | 21/3期 | 22/3期 | 増減   |            | 21/3期 | 22/3期 | 増減   |
|------------|-------|-------|------|------------|-------|-------|------|
| 流動資産       | 835   | 935   | +100 | 負債合計       | 726   | 784   | +58  |
| 現金及び預金     | 147   | 111   | ▲35  | 流動負債       | 429   | 551   | +122 |
| 受取手形及び売掛金  | 343   | 315   | ▲28  | 固定負債       | 296   | 233   | ▲63  |
| たな卸資産及び前渡金 | 332   | 470   | +137 | 純資産合計      | 591   | 640   | +48  |
| その他        | 11    | 38    | +26  | 株主資本       | 574   | 621   | +46  |
| 固定資産       | 481   | 488   | ▲6   | 資本金        | 116   | 116   | -    |
| 有形固定資産     | 297   | 288   | ▲8   | 資本剰余金      | 125   | 125   | ▲0   |
| 無形固定資産     | 9     | 19    | +10  | 利益剰余金      | 333   | 381   | +47  |
| 投資その他資産    | 175   | 180   | +5   | その他包括利益累計額 | 16    | 20    | ▲3   |
| 資産合計       | 1,317 | 1,424 | +107 | 負債純資産合計    | 1,317 | 1,424 | +107 |

### ・財務指標等

(単位：億円)

|        | 21/3期 | 22/3期 | 増減     |
|--------|-------|-------|--------|
| 有利子負債  | 410   | 411   | +1     |
| DER    | 0.71倍 | 0.66倍 | ▲0.05倍 |
|        | 21/3期 | 22/3期 | 増減     |
| 純資産    | 591   | 640   | +48    |
| 自己資本比率 | 44.9% | 45.1% | +0.2%  |

・日本格付研究所(JCR)格付  
 長期発行体格付 : BBB+  
 格付の見通し : 安定的

---

# 3. 中期経営計画2020-2022 の進捗と今後の方針

代表取締役社長 横田和彦

## 3-1. 基本戦略（6テーマ）の中期経営計画期間中の取り組み状況

### 収益基盤の強化と持続的発展のための基盤構築

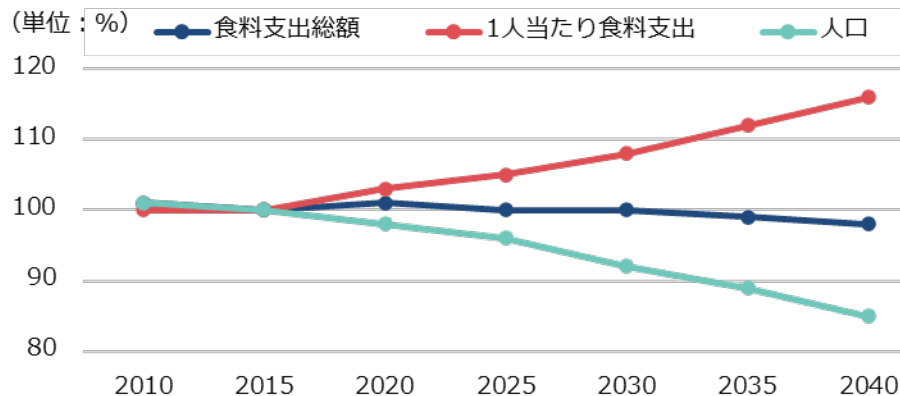
|                        | 位置づけと狙い         | 取り組み状況                                                   |
|------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------|
| ①中核事業の基盤強化・維持          | 収益力の根幹          | 食肉原料のリブランディングや、豚の加工工場への除骨ロボットの導入を実施した                    |
| ②食肉加工メーカーとしての基盤強化      | 新たなる収益基盤        | 外部企業との業務提携や、宮城県の大賀城PCの新設等、加工能力を増強した。衛生面の一層の強化も進めている      |
| ③グローバル企業への展開・代替食肉の取り組み | 次の成長領域          | 中国・タイへの拠点進出および、既存海外拠点の事業を拡大。大塚食品とのコラボによるゼロミートも、導入先が増えている |
| ④業務プロセス改革              | 実効性・効率性の追求      | 事業の効率化および意思決定の迅速化に向け、物流改革とDXプロジェクトを発足させている               |
| ⑤コーポレート機能強化            | グループ競争力の強化      | 資本コスト低減に向け、調達手段を多様化させた。人事制度の更改や研修制度の充実などにより働きがい向上を図っている  |
| ⑥サステナビリティへの取り組み強化      | 社会の一員としての存在意義強化 | サステナビリティ基本方針を定め、重要課題を特定。個別の取り組みに着手すると共に、社内意識の改革を行っている    |

現行の中期経営計画では、2021年3月期から2023年3月期までの3年間を、さらなる成長のための足固めの期間としました。事業環境が不確実性を増す中、既存事業の強化と、次なる成長領域への取り組みを通じ、収益基盤の強化を図っています。またデジタルトランスフォーメーション（DX）や業務プロセス改革などを通じ、事業拡大に向けた企業インフラの整備に取り組んでいます。

現在の中期経営計画の各計画数値は、いずれも既に達成済みですが、当社の主たる施策は引き続き有効との認識のもと、2024年3月期を初年度とする新たな中期経営計画の策定に取り組んでいます。

## 3-2. ①中核事業の基盤強化・維持（収益力の根幹）

### 食料支出総額、1人当たり食料支出の将来推計（2015年を100とする）



出典：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計（2019年版）」

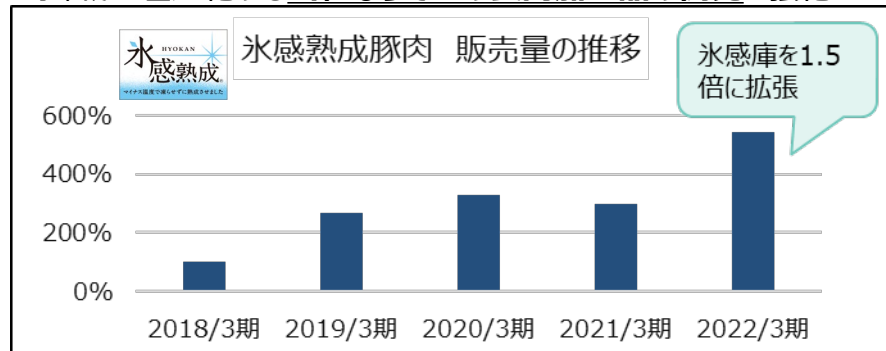
### 生産事業の整備、輸出事業の強化

- 食品循環飼料「エコフィード」を用いた養豚事業を推進。サプライチェーンを繋ぎ、畜産業の持続可能性を高める
- 輸出専用ブランド「Akune Gold 皇（すめらぎ）」を立ち上げ。海外市場における当社発の黒毛和牛の差別化を図る



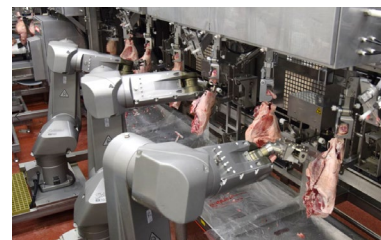
### 相場価格に影響されにくい食肉製品の開発

- 既存食肉ブランドの訴求力強化…「こだわりポーク」の産地別提案
- 新規食肉ブランドの立ち上げ…輸入豚肉ブランド「アイオワの恵み」
- 一般豚肉の高付加価値化…「氷感熟成」販売量拡大
- 原料から差別化する当社ならではの食肉加工品の開発を強化



### 工場の人手不足・労務負担軽減

- 人口減少や地方の過疎化に伴う人手不足は不可避であるという認識のもと、自動化・機械化を推進している
- 工場所在地域の採用活動ならびに人材育成を強化
- 機械化・自動化に伴い、工務人材の強化・育成も必要になると認識している



豚もも部位自動除骨ロボット  
「ハムダス-RX」



豚肩甲骨・上腕骨除骨ロボット  
「ワンドスミニ マークⅡ」

### 3-3. ②食肉加工メーカーとしての基盤強化（新たな収益基盤）

#### 世帯類型別の食料支出割合の推移

（単位：％）

|      | 単身世帯 |      |      | 二人以上の世帯 |      |      | 総世帯  |      |      |
|------|------|------|------|---------|------|------|------|------|------|
|      | 生鮮食品 | 加工食品 | 外食   | 生鮮食品    | 加工食品 | 外食   | 生鮮食品 | 加工食品 | 外食   |
| 1995 | 18.0 | 34.2 | 47.9 | 38.1    | 45.6 | 16.4 | 34.6 | 43.6 | 21.8 |
| 2005 | 17.4 | 41.0 | 41.7 | 33.8    | 49.6 | 16.6 | 30.3 | 47.8 | 21.9 |
| 2015 | 18.2 | 50.2 | 31.6 | 30.2    | 52.7 | 17.1 | 27.4 | 52.1 | 20.5 |
| 2020 | 17.6 | 53.0 | 29.3 | 29.3    | 53.2 | 17.6 | 26.2 | 53.1 | 20.6 |
| 2030 | 16.3 | 58.6 | 25.1 | 26.4    | 55.2 | 18.4 | 23.4 | 56.2 | 20.4 |
| 2040 | 14.7 | 63.9 | 21.4 | 23.8    | 57.0 | 19.1 | 21.0 | 59.2 | 19.9 |

出典：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計」（2019年）

#### 加工メーカーとしての機能強化

- 自社商品のブランド力向上に向けて、**ブランドの統合（「我家のビストロ」）と立ち上げ（「那須の森」）を実施**。提案力を強化
- 加工メーカーに相応しい品質保証体制の整備
- 「衛生面」の更なる高付加価値化に向けて、産学連携を推進  
…東京家政大学とのガス置換包装に関する共同研究ならびに厚生労働省からの認可取得
- EC商品の拡充として当社ならではの価値を、DtoCで提案する



#### プロセスセンターの整備

- 協業を通じた機能強化…**富士総合食品との業務提携（2021年7月）、大商金山牧場との資本業務提携（2022年3月）**
- 消費地に近い、営業所と併設したPCにより、お客様のアウトパックニーズに応える…**仙台営業センター多賀城DC（2020年）に続き、今後も拡充予定**
- SMPの食肉処理・加工工場における産地PC機能の拡充。高度な衛生管理で更なるロングライフ化を実現する…**SMP阿久根工場にて、国内外の市場に向けてスキンパック設備を導入**



#### ハンバーグ事業の再構築

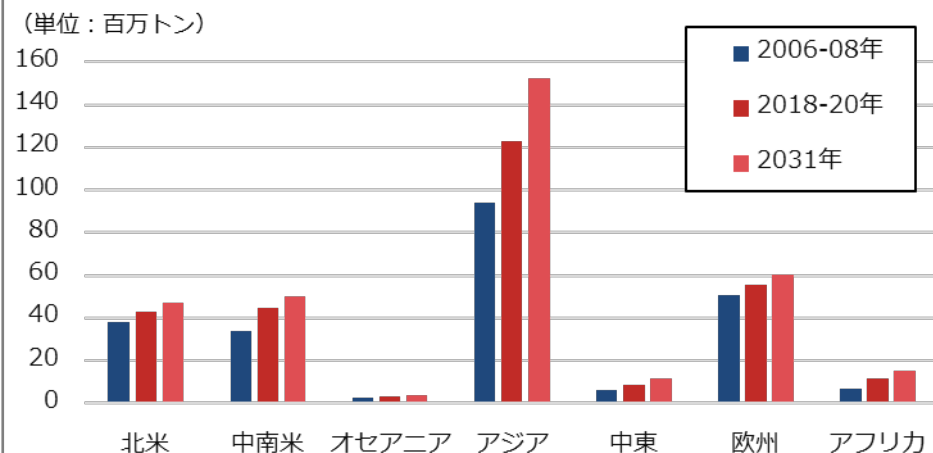
- 松尾工場（千葉県）と本宮工場（福島県）の2工場体制を生かし、BCP対策を構築
- NB商品のターゲットを明確化。原料や味付けで特色を持たせた商品ラインアップを拡充することで、自社商品のファンを増やす
- 自社ブランド商品の販売強化を進め、収益力を高める





### 3-4. ③グローバル企業への展開・代替食肉の取り組み（次の成長領域）

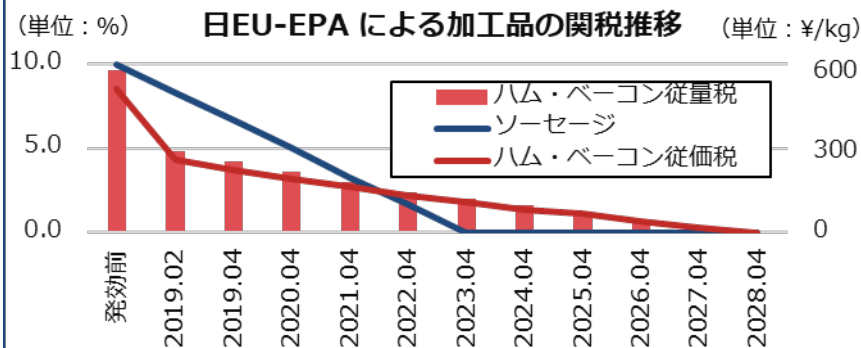
#### 肉類の地域別消費量の見通し



出典：農林水産政策研究所「世界の食料需給の動向と中長期的な見通し」（2022年）

#### 輸入加工品の強化・海外調達確保

- ・ 関税低減を追い風に、輸入加工品は拡大余地がある
- ・ 欧州・南米等からの調達比率を拡大中
- ・ パッカーとの関係強化のため、人材派遣を実施



#### 海外拠点整備と現地販売強化

- ・ 消費地・供給地いずれの観点からも有望なタイに、**バンコク駐在事務所を設立（2020年）**
- ・ 牛肉の輸出先として、潜在的な市場が期待される中国に、**星徳真食品（上海）有限公司（読み方：シン・ダー・ジェン・シー・ピン）を設立（2021年）**
- ・ 現地販売機能の強化…供給地の拠点における販売免許の取得
- ・ **豪州産Wagyu「八桜牛」**は、SZAUが現地生産者と共同で立ち上げ。豪州内のコンテストでも入賞した



#### 代替食肉の挑戦

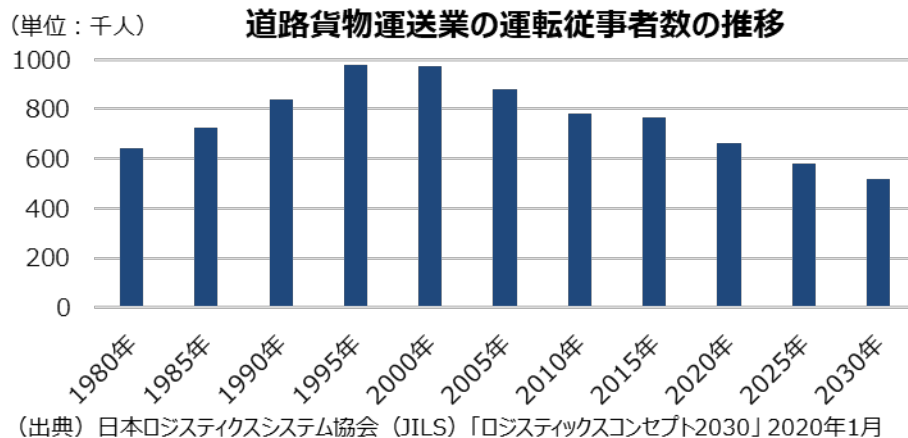
- ・ 大塚食品のゼロミートシリーズの、ハンバーグとソーセージタイプ、ハムタイプを当社が製造している
- ・ 業務用商品も2021年9月より展開。外食や弁当、総菜向けにニーズが伸長





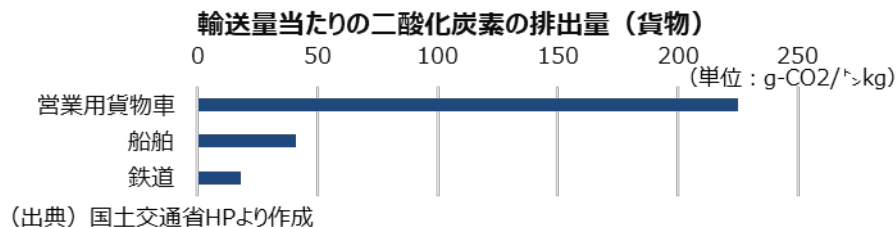
## 3-5. ④業務プロセス改革（実効性・効率性の追求）

### 物流危機の到来



### 物流改革の推進

- ・ **外部冷蔵庫の集約により、集荷時間・移動距離を短縮。**幹線物流の効率化を推進（2022年1月～）
- ・ ルート配送における共配を一部で実施している
- ・ **幹線物流におけるモーダルシフト**…今期より、鉄道で定期便をスタートさせる。温室効果ガスGHG削減効果も大いに期待できる



### DXの必要性（2025年の崖）

- ・ 2025年には古いシステムが6割を超えてくる中、システム開発人材も高齢化し、老朽化したシステムの維持そのものが困難となる

2020年

2025年

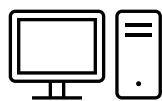
日本全体



21年以上稼働  
の基幹システム  
**2割**



IT人材不足  
**約43万人**



21年以上稼働  
の基幹システム  
**6割**

(出典：経済産業省「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～」(2018年)より当社作成)

### DX（デジタルトランスフォーメーション）

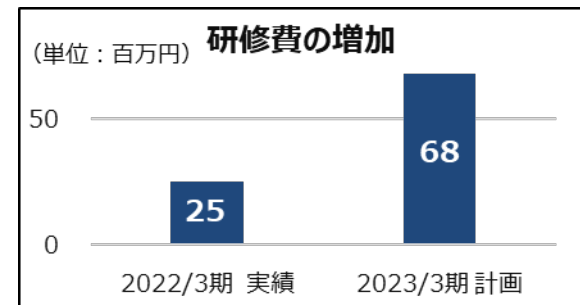
- ・ **Zeusプロジェクト：「業務プロセス改革」×「ICT技術の最大限活用」**によって、意思決定を迅速化し、生産性と競争力を向上させ収益力を高める狙い
- ・ 基幹システムは、2023年度から新システムを順次稼働、2025年度中に一通り切り替わる予定
- ・ 管理会計の強化、業務効率化、働きやすさの向上といったメリットも期待される



### 3-6. ⑤コーポレート機能強化（グループ競争力強化）、 ⑥サステナビリティへの取り組み強化（社会の一員としての 存在意義強化）

#### コーポレート機能強化

- ・ 投融資審査機能の強化
- ・ 調達手段の多様化を実施。商流の都合上、買掛金のサイトよりも売掛金のサイトが長く、事業拡大には運転資金を多く持つ必要がある  
…**売掛債権流動化の拡大**。銀行借入よりも低い手数料で運転資金を調達可能  
…**2021年6月、第1回無担保公募社債を発行**
- ・ **研修制度の充実…研修費を増やし、階層別研修を拡充**
- ・ ガバナンスの高度化…**取締役の人数を削減。経営と執行の分離**を目指し、管掌を導入  
また、**当社初の女性取締役**を、6月の株主総会にて選任予定



#### サステナビリティへの取り組み強化

- ・ **「サステナビリティ基本方針」(2021年11月)、「環境基本方針」「人権基本方針」「労働安全衛生基本方針」をそれぞれ策定** (2021年5月)。サステナビリティ経営を推進し、持続的成長を図る
- ・ **ESGに沿った10の重要課題の特定 (2022年2月)** …詳細は補足資料ご参照
- ・ **TCFD (気候変動関連財務情報開示タスクフォース) への賛同** (2022年2月)



##### ◆温室効果ガス削減に向けた取り組み

- ・ **SMP阿久根工場加工センターへの太陽光パネル導入 (2022年2月)**。太陽光発電設備は合計3工場に
- ・ 2021年より、**SMP青森工場三沢パークセンターにてエコクラウドシステム**を導入。冷蔵・冷凍機の稼働を自動調整し、電力使用量を削減

##### ◆従業員の働きがい向上

- ・ 従業員エンゲージメントの向上を図る
- ・ 女性管理職比率5%を達成。今後は10%を目指す

##### ◆アニマルウェルフェアへの対応

- ・ **グループ関連と場の係留場における飲水設備と監視カメラの設置2022年9月までに完了予定)**



スターゼンミートプロセッサー(株)  
阿久根工場 加工センター設置の太陽光パネル

### 3-8. 2023年3月期 通期業績予想

(単位：億円)

|      | 2022年<br>3月期実績 | 2023年<br>3月期予想 | 通期対比  |
|------|----------------|----------------|-------|
| 売上高  | 3,814          | 3,900          | +2.2% |
| 営業利益 | 69             | 68             | ▲1.5% |
| 経常利益 | 91             | 84             | ▲8.4% |
| 税後利益 | 59             | 57             | ▲4.8% |

#### ・23/3期通期業績予想 総括

- ①ロシアのウクライナ侵略による景気の悪化懸念
- ②世界的な食肉需要の高まりや飼料価格高騰、国際物流の混乱による調達コストの上昇
- ③原油価格の高騰により、工場・物流部門のコスト上昇

### 3-9. 2023年3月期 配当予想

#### 直近5年推移

|                  | 2019年<br>3月期実績 | 2020年<br>3月期実績 | 2021年<br>3月期実績 | 2022年<br>3月期予定 | 2023年<br>3月期予想 | 増減率  |
|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|------|
| 一株当り配当金<br>(円)※1 | 60<br>(120)    | 55<br>(110)    | 65<br>(130)    | 65             | 65             | 0%   |
| 配当金総額<br>(百万円)   | 1,168          | 1,073          | 1,267          | 1,265          | —              | —    |
| 配当性向             | 25.5%          | 61.5%          | 18.3%          | 21.1%          | 22.2%          | 0.1% |

※1 当社は2021年4月1日を効力発生日として1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を記載しております。尚、括弧書きは株式分割前の1株当たり配当金を記載しております。



# 決算説明会 補足資料

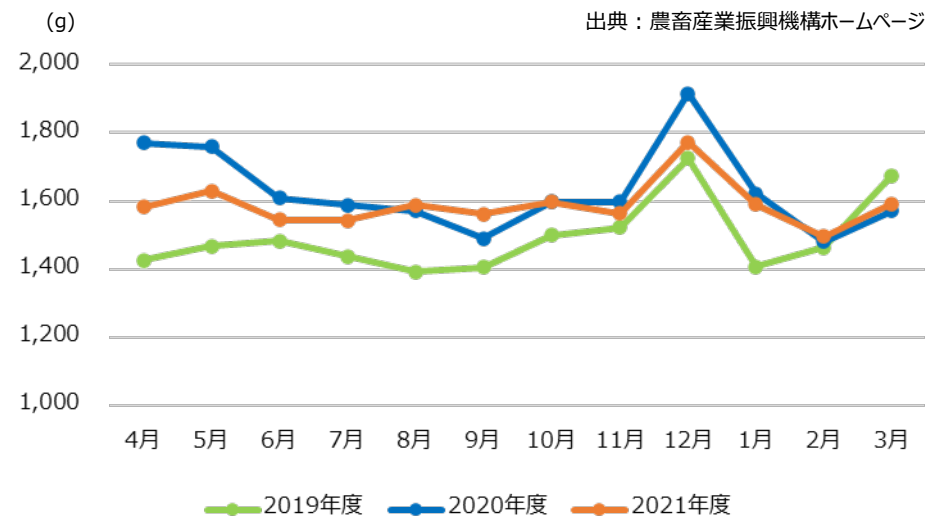
2022年  
5月31日

証券コード：8043

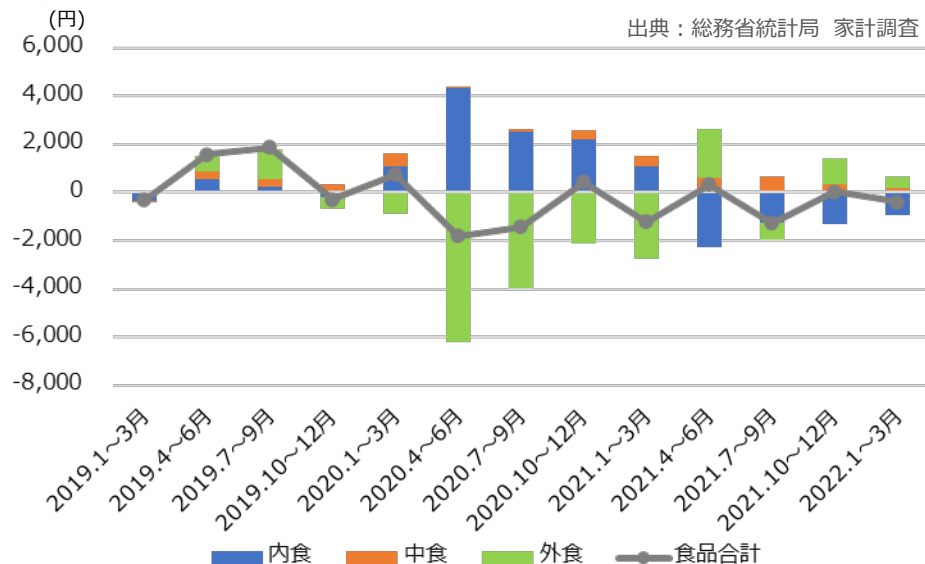
|                                   |      |
|-----------------------------------|------|
| 補足1-1. コロナ禍における食品業界の動き            | p.23 |
| 補足1-2. 食肉相場の変化                    | p.24 |
| 補足2. スターゼングループの経営ビジョンとバリューチェーン    | p.25 |
| 補足3. 経営ビジョン・重要課題、新中期経営計画（策定中）の関係性 | p.26 |
| 補足4. 当社に関わる社会課題の重要度評価と優先順位の検討     | p.27 |
| 補足5. スターゼングループの重要課題とSDGsの位置づけ     | p.28 |

# 補足1-1. コロナ禍における食肉業界の動き

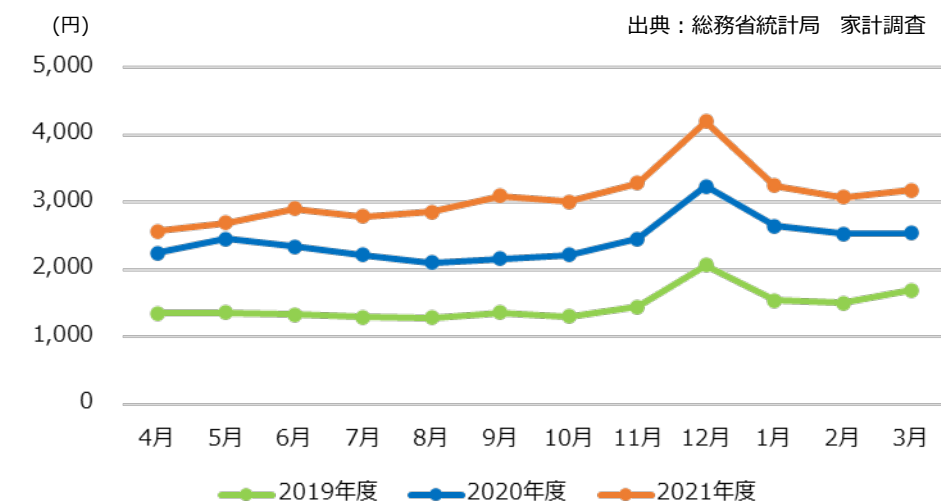
## ①食肉の消費動向



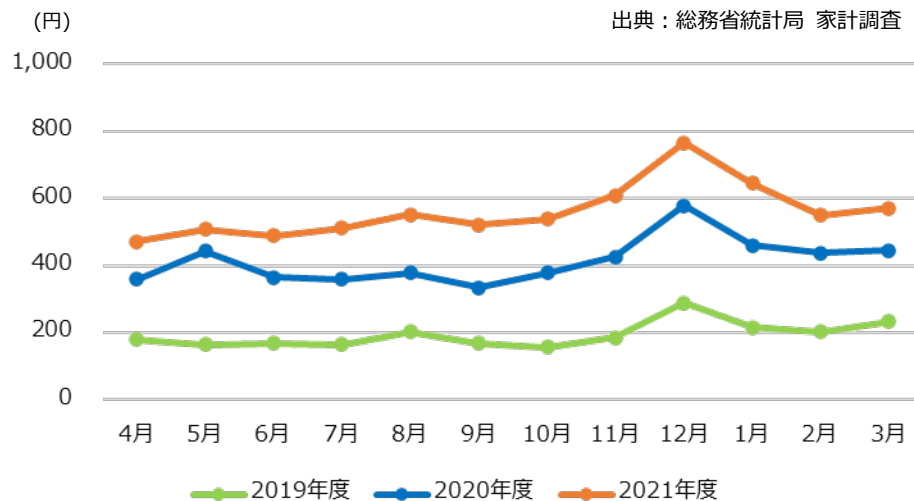
## ②一世帯当たり食料支出増減（総世帯）



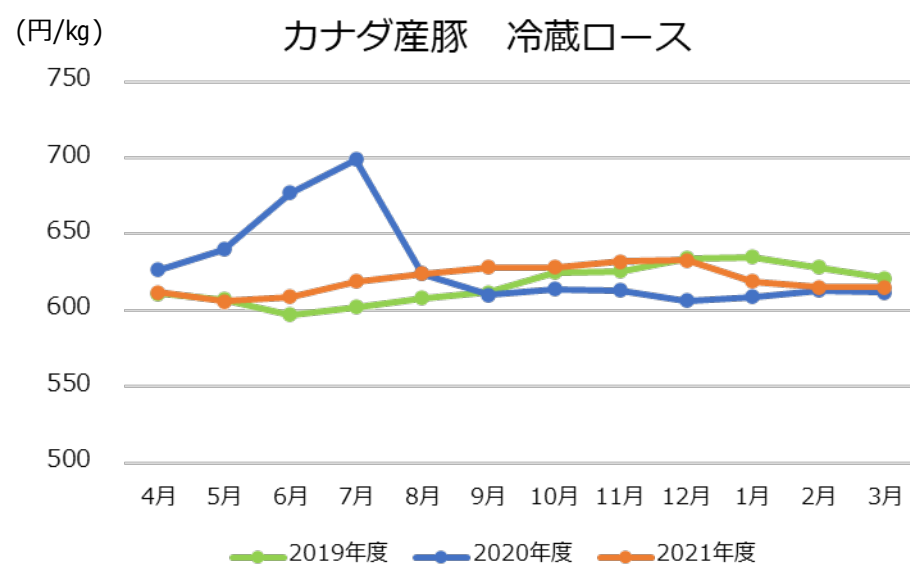
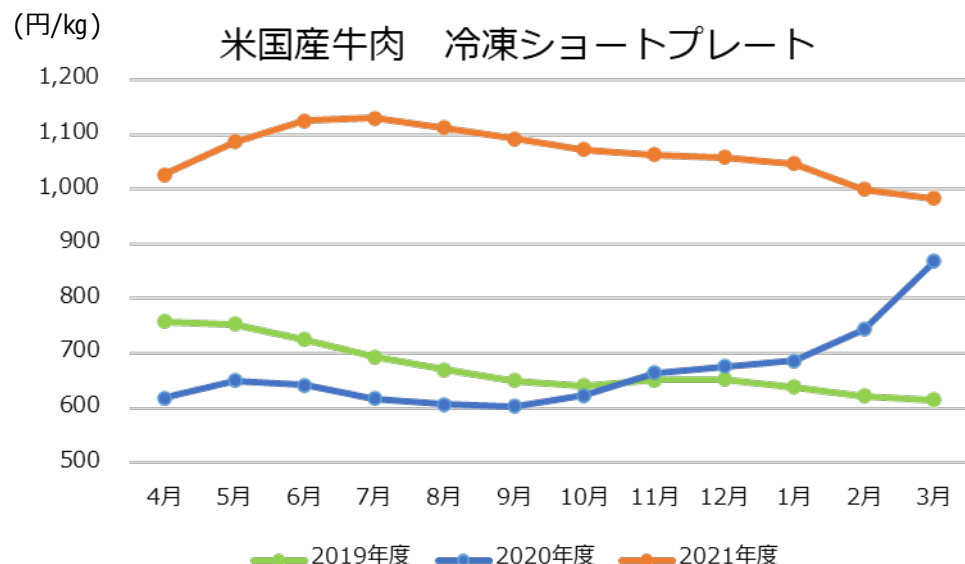
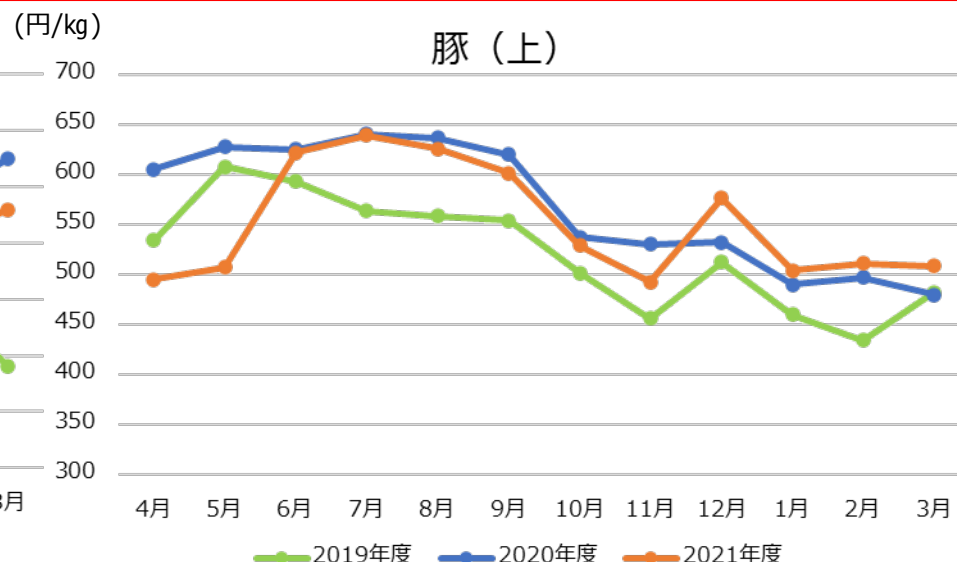
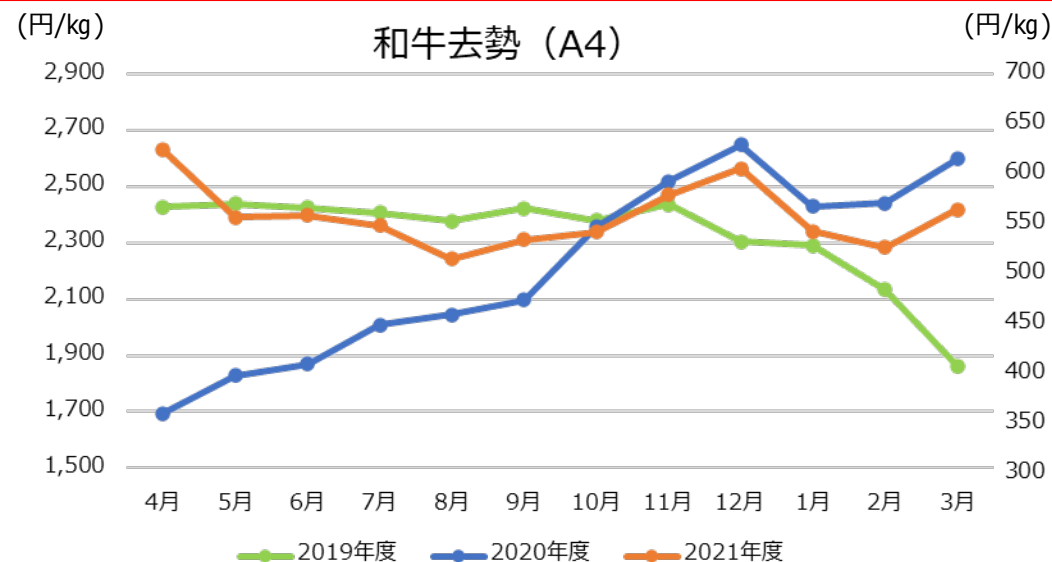
## ③インターネットを利用した食料支出の状況（二人以上の世帯）



## ④フードデリバリーサービスの利用状況（二人以上の世帯）



## 補足1-2. 食肉相場の変化

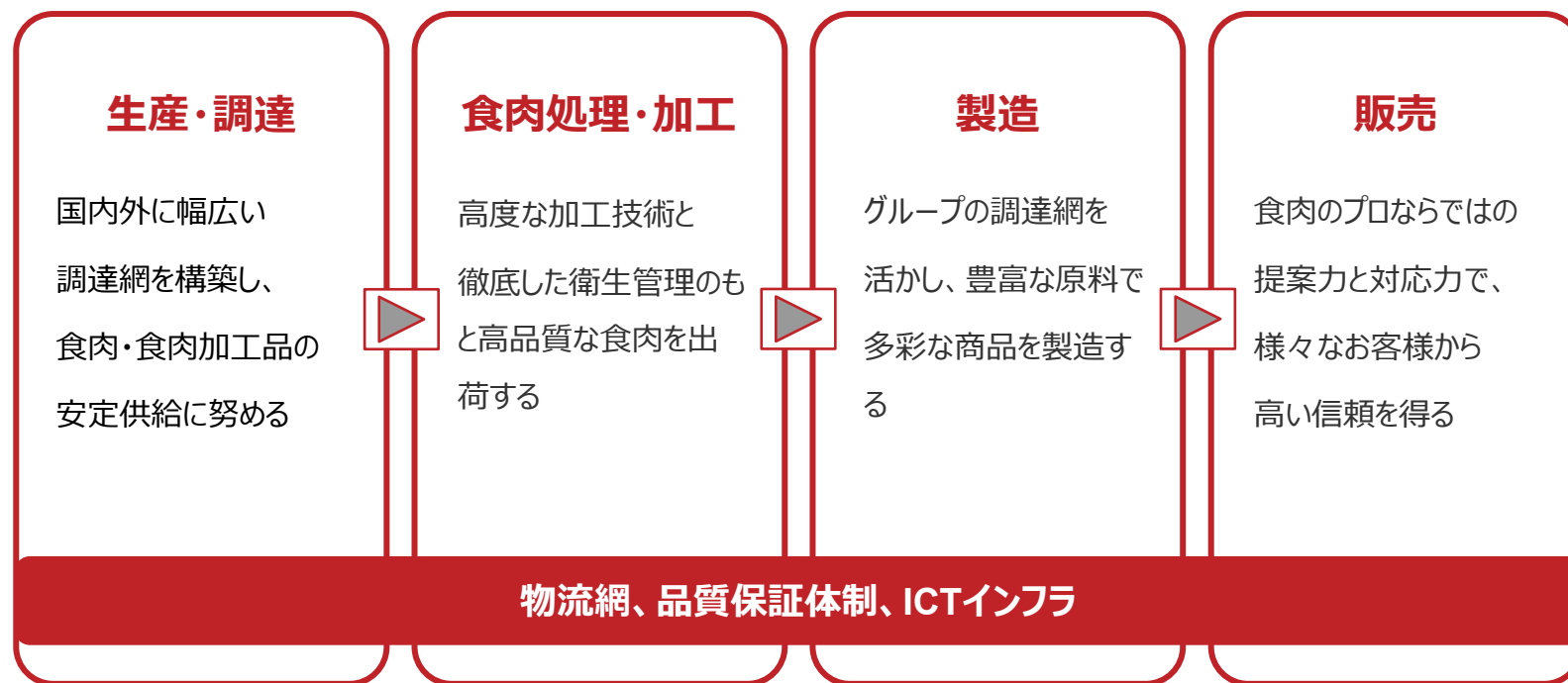


出典：和牛去勢・豚...東京都中央卸売市場日報 加重平均相場／輸入牛・豚...農畜産業振興機構



## 補足2. スターゼンの経営ビジョンとバリューチェーン

生産・調達から加工・製造、販売に至るまでを繋ぐトータルサプライチェーンを構築



“食を通して人を幸せにする

グローバルな生活関連企業を目指す”

## 補足3. 経営ビジョン・重要課題、新中期経営計画（策定中）の関係性

経営ビジョン（目指す方向性）  
食を通して人を幸せにする  
グローバルな生活関連企業を目指す

10年後のあり姿  
・川上から川下まで強靱な食肉サプライチェーン  
・肉のプロフェッショナル集団  
・働いてよかったと思える会社

### 新中期経営計画

課題を解決し、あり姿に近づくための施策

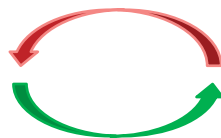
#### 解決すべき課題（重要課題の5つのテーマ）

|   |                           |
|---|---------------------------|
| E | 気候変動、食品ロスの削減              |
| S | 労働慣行、労働安全衛生、従業員満足         |
|   | 品質安全性、健康栄養                |
|   | サプライチェーンの強化、アニマルウェルフェアの推進 |
| G | コーポレートガバナンスの強化            |

現在

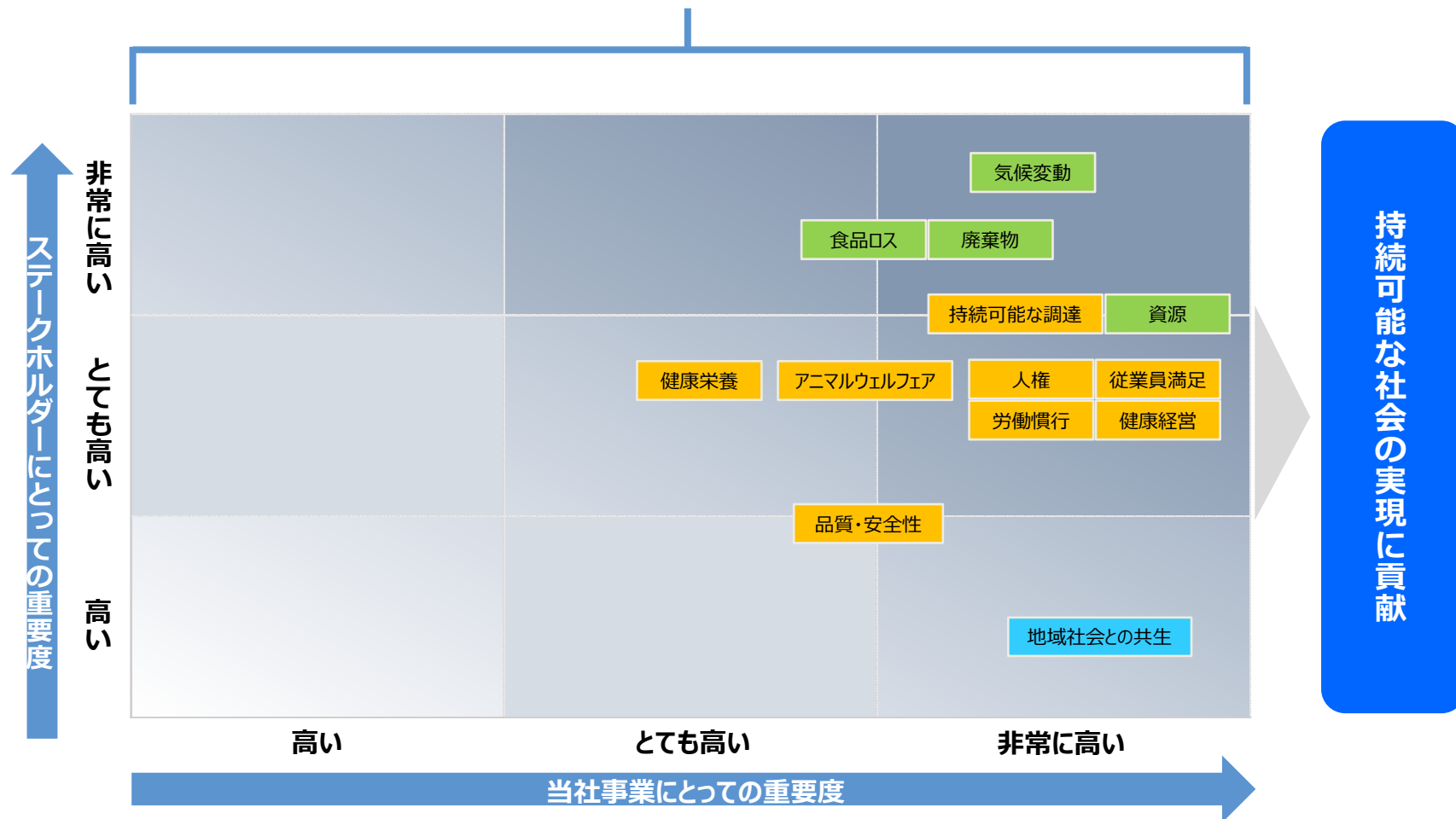
## 補足4. 当社に関わる社会課題の重要度評価と優先順位の検討

社会価値



事業価値

ステークホルダー（社会）と当社事業の好循環を目指す



## 補足5. スターゼングループの重要課題とSDGsの位置づけ

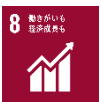
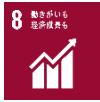
### E 環境

#### テーマ① 持続可能な環境への配慮

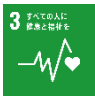
| 重要課題    | 目標                                      | 対応するSDGs                                                                                                                                                             | 方針                                                                                                                                              |
|---------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 気候変動    | 2030年度末までに<br>温室効果ガス46%削減<br>(※2020年度比) |   | 当社は生産・加工・物流のすべての事業領域でCO2をはじめとする温室効果ガス排出の抑制・削減に取り組みます。また、家畜動物の成育方法を見直し、水資源保全と家畜由来の温室効果ガスを削減する方法を追求します。                                           |
|         | 水使用量原単位の削減                              |   |                                                                                                                                                 |
| 食品ロスの削減 | 消費期限・賞味期限の延長                            |   | 当社の事業は家畜の尊い「いのち」の恵みのうえに成り立っていることを再認識し、新たな技術を活用し消費期限および賞味期限の延長に取り組みます。<br>また、食品循環飼料「エコフィード」を用いた養豚事業を推進し、食品資源の有効活用につとめ、サプライチェーンを通じた食品ロス削減に取り組みます。 |

### S 社会

#### テーマ② 働いてよかったと思える魅力ある職場づくりの実現

| 重要課題   | 目標             | 対応するSDGs                                                                                                                                                                 | 方針                                                                                                                                                                    |
|--------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 労働慣行   | 多様な人材の育成・活用    |       | 当社は経営理念の一つに「スターゼンで働いてよかったと思える会社になろう」と掲げています。<br>従業員の健康・安全を第一として、安心して長く働ける、快適な魅力ある職場環境を整備します。また、誰もが互いの思いと意見を尊重し合える企業風土を醸成し、一人ひとりが自分の仕事に熱意を持ち、積極的且つ自律的に働ける職場づくりに取り組みます。 |
|        | 働きやすい職場環境の整備   |                                                                                       |                                                                                                                                                                       |
| 労働安全衛生 | 従業員の健康維持・向上    |                                                                                       |                                                                                                                                                                       |
| 従業員満足  | 従業員エンゲージメントの向上 |   |                                                                                                                                                                       |

## 補足5. スターゼングループの重要課題とSDGsの位置づけ

| テーマ③ 安全・安心な食の追求            |                                                   |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重要課題                       | 目標                                                | 対応するSDGs                                                                                                                                                            | 方針                                                                                                                                                                                     |
| 品質・安全性                     | 生産から販売までSQFで繋がるバリューチェーンの構築                        |   | 創立以来大切にしている「安全・安心で、よりおいしい商品を、どんな時もお客様にお届けしたい」という想いの下、食のトータルサプライヤーとして今後も「食」を通してお客様を幸せにできる企業を目指します。                                                                                      |
| 健康栄養                       | 植物由来商品の販売拡大による多様なたんぱく質の提供                         |   |                                                                                                                                                                                        |
| テーマ④ 再生産可能な安定調達、供給体制の維持・向上 |                                                   |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                        |
| 重要課題                       | 目標                                                | 対応するSDGs                                                                                                                                                            | 方針                                                                                                                                                                                     |
| サプライチェーンの強化                | 強靱なサプライチェーンの実現                                    |   | 当社は持続可能な調達・供給を実現するため、地球環境および動物福祉等の社会課題に配慮した原材料調達を追求します。また、畜産業が直面している気候変動問題と、それらに起因する課題に共に向き合う原材料調達先の育成と開拓に取り組みます。加えて、自然災害等によるサプライチェーン寸断のリスクに備えるため、調達先の多角化と、調達先との長期的・安定的な関係性の構築に取り組みます。 |
| アニマルウェルフェアの推進              | アニマルウェルフェアの基本とされる「5つの自由」の実現<br><br>快適で健康的な飼養環境の整備 |                                                                                    |                                                                                                                                                                                        |
| G ガバナンス                    |                                                   |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                        |
| テーマ⑤ 実効性の高いコーポレートガバナンスの実現  |                                                   |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                        |
| 重要課題                       | 目標                                                | 対応するSDGs                                                                                                                                                            | 方針                                                                                                                                                                                     |
| コーポレートガバナンスの強化             | 恒久的な企業価値向上                                        |                                                                                  | 持続的成長と中長期的な企業価値向上の実現のため、株主をはじめとするすべてのステークホルダーに真摯に向き合い、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うことのできる、プライム市場上場企業に相応しい強靱な組織を構築します。                                                                           |

当資料は投資家の参考に資するため、スターゼン株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。記載内容は、2022年5月31日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。本発表にて提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みますが、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。